

岡山県感染症週報 2017年 第27週 (7月3日～7月9日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2017年 第27週(7/3～7/9)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第25週	5類感染症	梅毒	5名(10代 男 1名、20代 男 1名・女 1名、30代 男 2名)
第26週	2類感染症	結核	1名(70代 男)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名(O157:40代 女)
	5類感染症	梅毒	4名(30代 男 2名、40代 男 1名、50代 男 1名)
第27週	2類感染症	結核	1名(20代 男)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1名(O157:20代 男)
	4類感染症	レジオネラ症	1名(80代 男)
	5類感染症	アメーバ赤痢	1名(60代 男)
		梅毒	2名(40代 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

○手足口病は、県全体で413名(定点あたり4.57→7.65人)の報告があり、前週より増加しました。

○ヘルパンギーナは、県全体で99名(定点あたり0.91→1.83人)の報告があり、前週より大きく増加しました。

- 腸管出血性大腸菌感染症**は、第26週に1名、第27週に1名の報告があり、2017年第27週まで(～7/9)の累計報告数は11名となりました。岡山県では7月5日に「**腸管出血性大腸菌感染症注意報**」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。例年、7～8月は最も発生が多くなる時期です。この季節、細菌が増殖しやすい高温多湿な環境になっていますので、手洗いを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで十分に火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『**腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!**』をご覧ください。
- 手足口病**は、県全体で413名(定点あたり4.57→7.65人)の報告があり、3週連続で増加しました。地域別では、美作地域(12.67人)、倉敷市(9.55人)、備前地域(8.70人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
- ヘルパンギーナ**は、県全体で99名(定点あたり0.91→1.83人)の報告があり、前週より大きく増加しました。地域別では、真庭地域(5.00人)、倉敷市(2.82人)、美作地域(2.17人)の順で定点あたり報告数が増えており、備北地域を除く全ての地域で、患者が報告されています。県内の発生状況など、詳しくは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓	★	RSウイルス感染症	↓	
咽頭結膜熱	→	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	★★
感染性胃腸炎	↘	★★★	水痘	↗	★
手足口病	↗	★★★★★	伝染性紅斑	→	★
突発性発疹	→	★★	百日咳	→	
ヘルパンギーナ	↑	★★	流行性耳下腺炎	↘	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	→	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↓		クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↓	* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013年第42週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少 ↘：減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間で比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)

空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

岡山県地区別 手足口病感染症マップ

第 26 週 6/26～



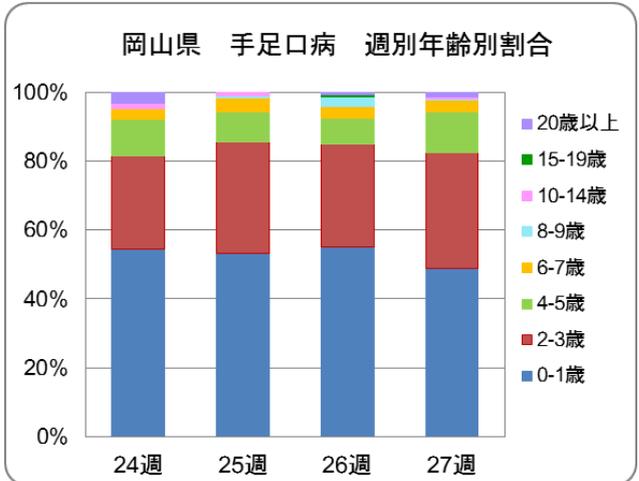
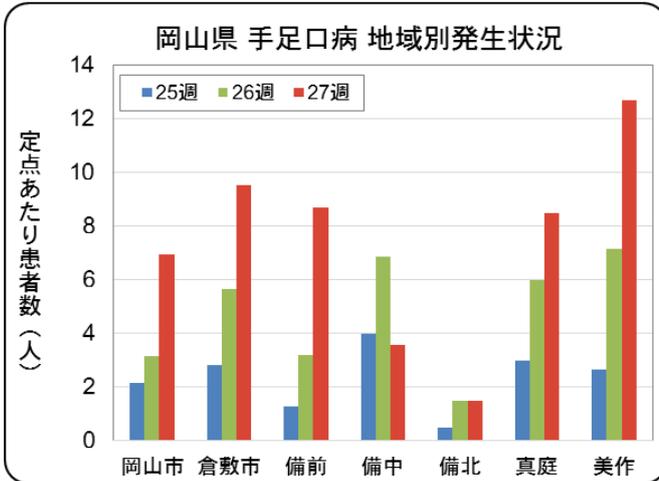
第 27 週 7/3～



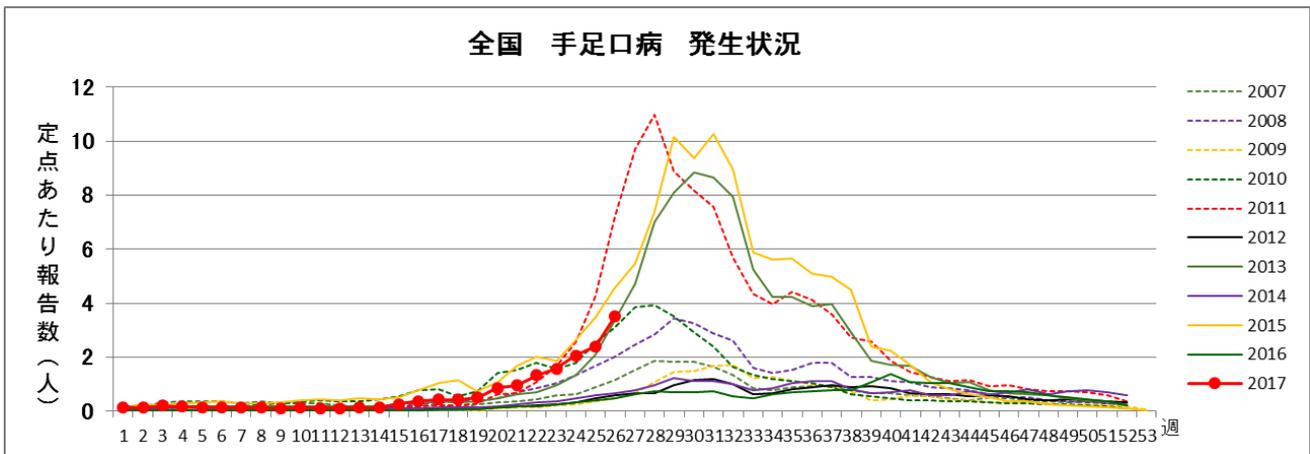
＜手足口病発生レベル基準＞

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
5	2	
レベル1		報告なし
基準値		基準値
0 < 5 未満		0

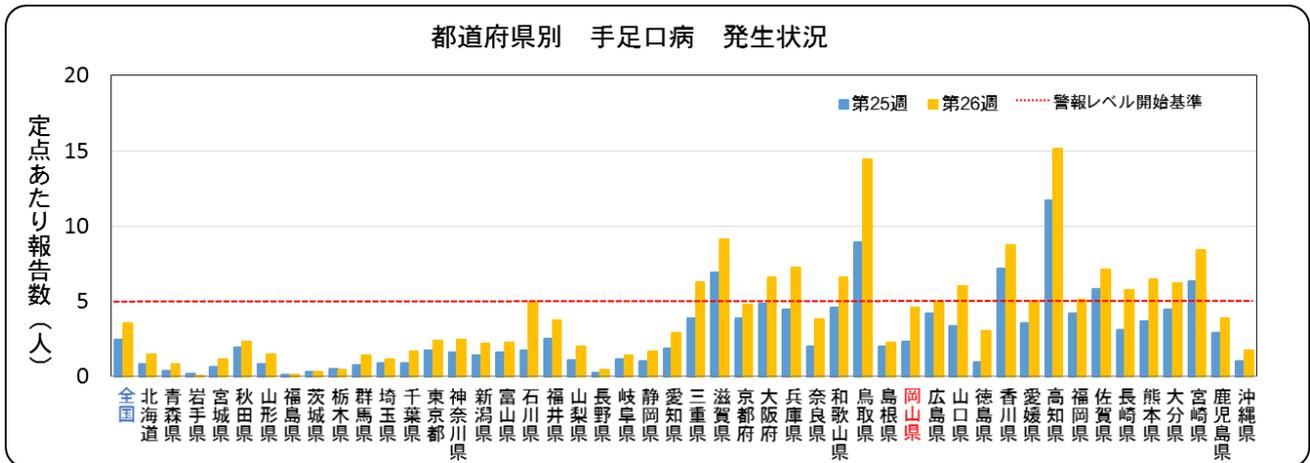
レベル 3 の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル 3 が継続されます。



【全国の発生状況】



全国の第 26 週 (6/26～7/2) の発生状況は、定点あたり報告数が 3.53 人であり、第 15 週 (4/10～4/16) 以降、増加がつづいています。都道府県別では、高知県 (15.13 人)、鳥取県 (14.42 人)、滋賀県 (9.13 人) の順で定点あたり報告数が多くなっており、16 府県で警報レベルを超える流行となっています。近隣県でも多くの患者が報告されているため、ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、うがいや手洗いを励行するなど感染予防に努めましょう。



[IDWR 速報データ 2017 年第 26 週 \(国立感染症研究所\)](#)

[IDWR 2017 年第 23 号<注目すべき感染症> 手足口病\(国立感染症研究所\)](#)

【手足口病とは】

夏に乳幼児を中心に流行する急性ウイルス性感染症です。コクサッキーウイルス、エンテロウイルスなどが原因となります。感染している人の咳やくしゃみで飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、便の中に排泄されたウイルスが、手指などを介して口に入ることによって感染します。

【症 状】

3～5日の潜伏期間の後、軽度の発熱とともに、口の粘膜、手のひら、足の甲や裏に2～3mmの水疱性発しんが出現するのが特徴です。3～7日で水疱は消え、通常予後は良好ですが、まれに髄膜炎や脳炎などを起こすことがあります。特に、エンテロウイルス 71 型による手足口病は、中枢神経系の合併症など、重症化する割合が高いと言われています。

【治 療】

特別な治療法はありません。経過観察を含め、症状に応じた対症療法が行われます。口の中に発しんができ食事を取りにくい場合、柔らかい薄味の食事にするなどの工夫をし、こまめな水分補給を心がけましょう。また、おう吐する、頭を痛がる、発熱が2日以上続く、ぐったりとしているなどの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう。

【予 防】

有効なワクチンはありません。患者との濃厚な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒、適切に排泄物を処理するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4 週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、手足口病にかかりやすい乳幼児が集団生活をしている保育園や幼稚園などでは、特に注意が必要です。

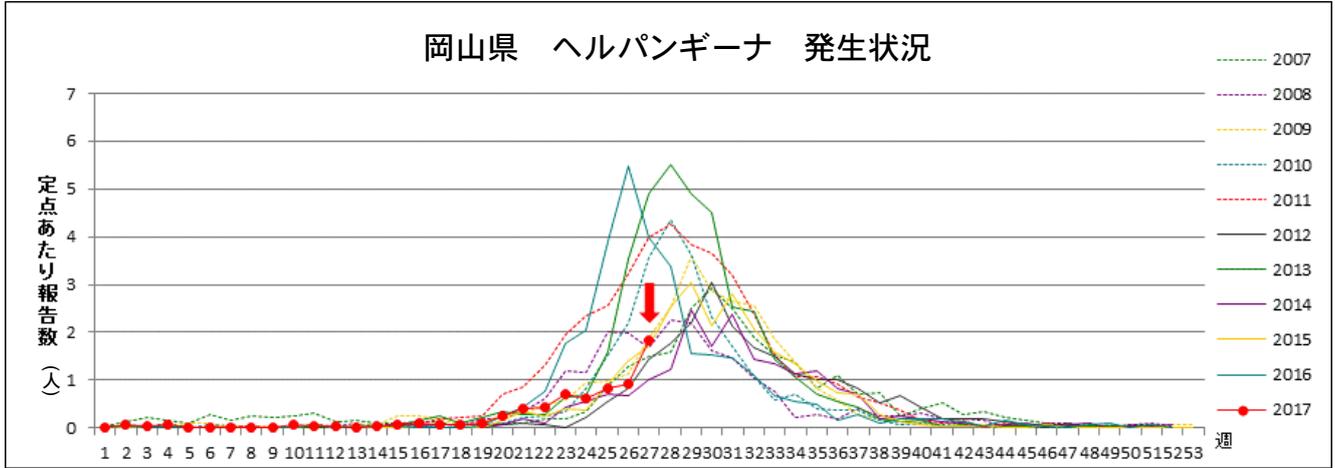
[手足口病とは \(国立感染症研究所\)](#)

[手足口病に関する Q&A \(厚生労働省\)](#)

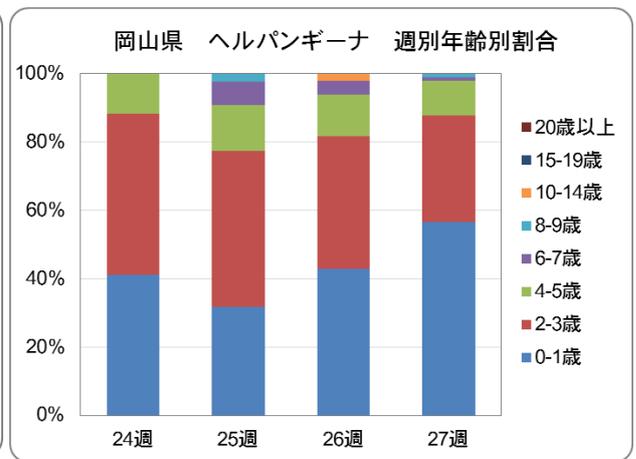
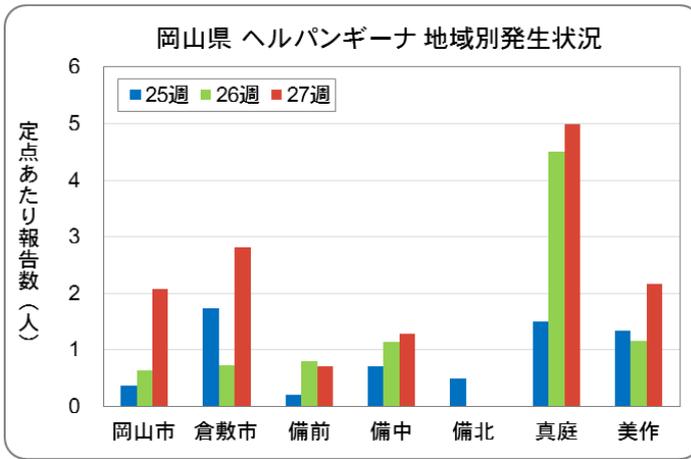
今週の注目感染症 (2)

ヘルパンギーナ

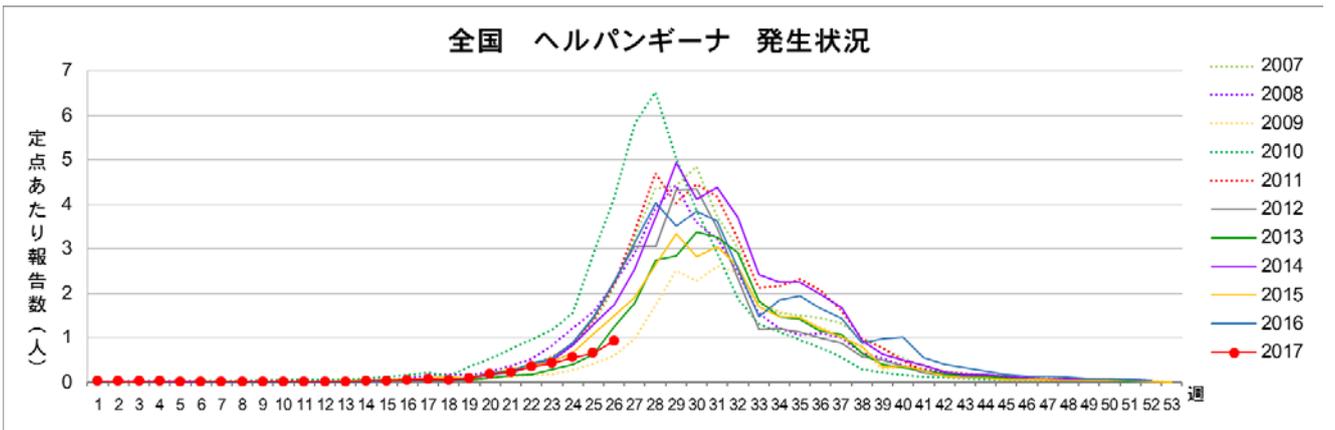
【岡山県の発生状況】



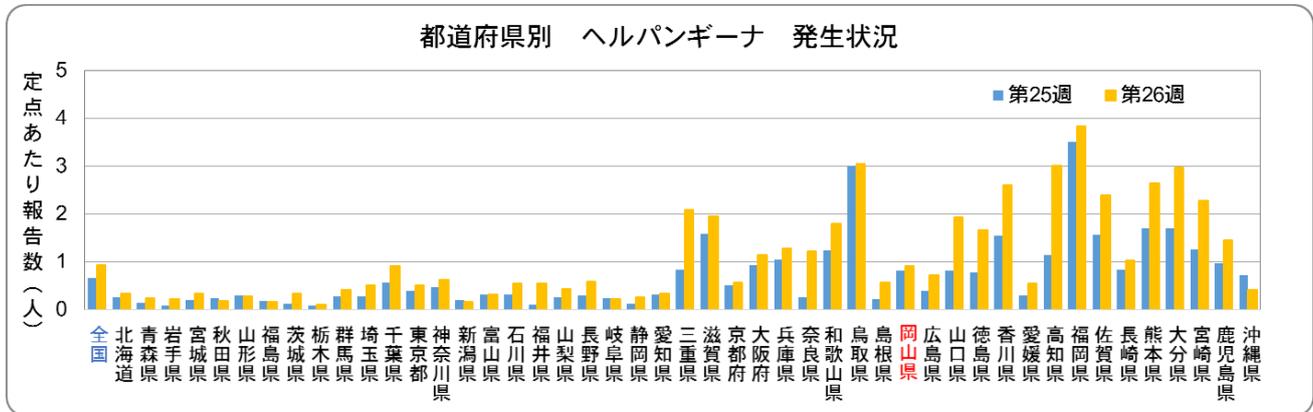
ヘルパンギーナは、県全体で99名（定点あたり0.91 → 1.83人）の報告があり、前週より大きく増加しました。地域別では、真庭地域（5.00人）、倉敷市（2.82人）、美作地域（2.17人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。備北地域を除く全ての地域で患者が報告されており、特に倉敷市と岡山市（2.07人）では、前週より大きく増加しました。年齢別割合では、5歳以下の乳幼児が全体の98%を占めており、1歳以下の割合が前週より高くなっています。



【全国の発生状況】



全国の第26週（6/26～7/2）の発生状況は、定点あたり報告数が0.93人であり、8週連続で増加しました。都道府県別では、福岡県（3.84人）、鳥取県（3.05人）、高知県（3.00人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。西日本を中心に流行しており、近隣県でも多くの患者が報告されています。今後の県内の発生状況に注意するとともに、うがいや手洗いを励行するなど感染予防に努めましょう。



[IDWR 速報データ 2017 年第 26 週（国立感染症研究所）](#)

【ヘルパンギーナとは】

ヘルパンギーナは、乳幼児を中心に夏季に流行する急性ウイルス性咽頭炎で、いわゆる夏かぜの代表的疾患です。主にコクサッキーウイルスなどが原因となります。感染している人の咳やくしゃみで飛び散るしぶきを浴びてウイルスを吸い込むことや、便の中に排泄されたウイルスが、手指などを介して口に入ることによって感染します。毎年、5月頃から患者が増加し始め、7月頃にかけてピークとなる傾向があります。

【症 状】

2～4日の潜伏期を経過し、突然の発熱（38～40℃）に続いて、のどが痛くなり、口腔内に直径1～5mmほどの赤い小水疱が多数出現するのが特徴です。小水疱は、やがて破れて痛みを伴います。通常、2～4日で軽快し、予後は良好な疾患ですが、発熱時に熱性けいれんを伴ったり、口腔内の痛みのため、食事や水分を十分にとれず脱水症状を呈することがあります。まれに、無菌性髄膜炎や急性心筋炎などを合併することもあるため、お子さんの状態に注意し、頭痛やおう吐がみられる際には、早めに医療機関を受診してください。

【予 防】

患者との密接な接触を避け、うがいや手洗い、手指の消毒を行い、オムツや便の取り扱い時には使い捨てのゴム手袋を使用するなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。症状が治まっても、2～4週間の長期間にわたり便の中にウイルスが排出されるため、保育園、幼稚園、学校などの集団生活では注意が必要です。

[ヘルパンギーナとは（国立感染症研究所）](#)

保健所別報告患者数 2017年 27週(定点把握)

(2017/07/03~2017/07/09)

2017年7月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	6	0.07	-	-	2	0.13	2	0.13	1	0.08	-	-	-	-	1	0.10
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	19	0.35	4	0.29	2	0.18	2	0.20	5	0.71	2	0.50	2	1.00	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	60	1.11	27	1.93	15	1.36	11	1.10	1	0.14	-	-	-	-	6	1.00
感染性胃腸炎	344	6.37	113	8.07	75	6.82	64	6.40	21	3.00	36	9.00	3	1.50	32	5.33
水痘	22	0.41	7	0.50	10	0.91	1	0.10	-	-	-	-	-	-	4	0.67
手足口病	413	7.65	97	6.93	105	9.55	87	8.70	25	3.57	6	1.50	17	8.50	76	12.67
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	36	0.67	16	1.14	6	0.55	8	0.80	1	0.14	2	0.50	-	-	3	0.50
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	99	1.83	29	2.07	31	2.82	7	0.70	9	1.29	-	-	10	5.00	13	2.17
流行性耳下腺炎	14	0.26	8	0.57	3	0.27	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	1	0.20	1	0.25	3	3.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2017年 27(発生レベル設定疾患)

(2017/07/03～2017/07/09)

2017年7月13日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	6	0.07	-	-	2	0.13	2	0.13	1	0.08	-	-	-	-	1	0.10
咽頭結膜熱	19	0.35	4	0.29	2	0.18	2	0.20	5	0.71	2	0.50	2	1.00	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	60	1.11	27	1.93	15	1.36	11	1.10	1	0.14	-	-	-	-	6	1.00
感染性胃腸炎	344	6.37	113	8.07	75	6.82	64	6.40	21	3.00	36	9.00	3	1.50	32	5.33
水痘	22	0.41	7	0.50	10	0.91	1	0.10	-	-	-	-	-	-	4	0.67
手足口病	413	7.65	97	6.93	105	9.55	87	8.70	25	3.57	6	1.50	17	8.50	76	12.67
伝染性紅斑	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	99	1.83	29	2.07	31	2.82	7	0.70	9	1.29	-	-	10	5.00	13	2.17
流行性耳下腺炎	14	0.26	8	0.57	3	0.27	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	0.50	1	0.20	1	0.25	3	3.00	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2017年 第27週 2017/07/03~2017/07/09)

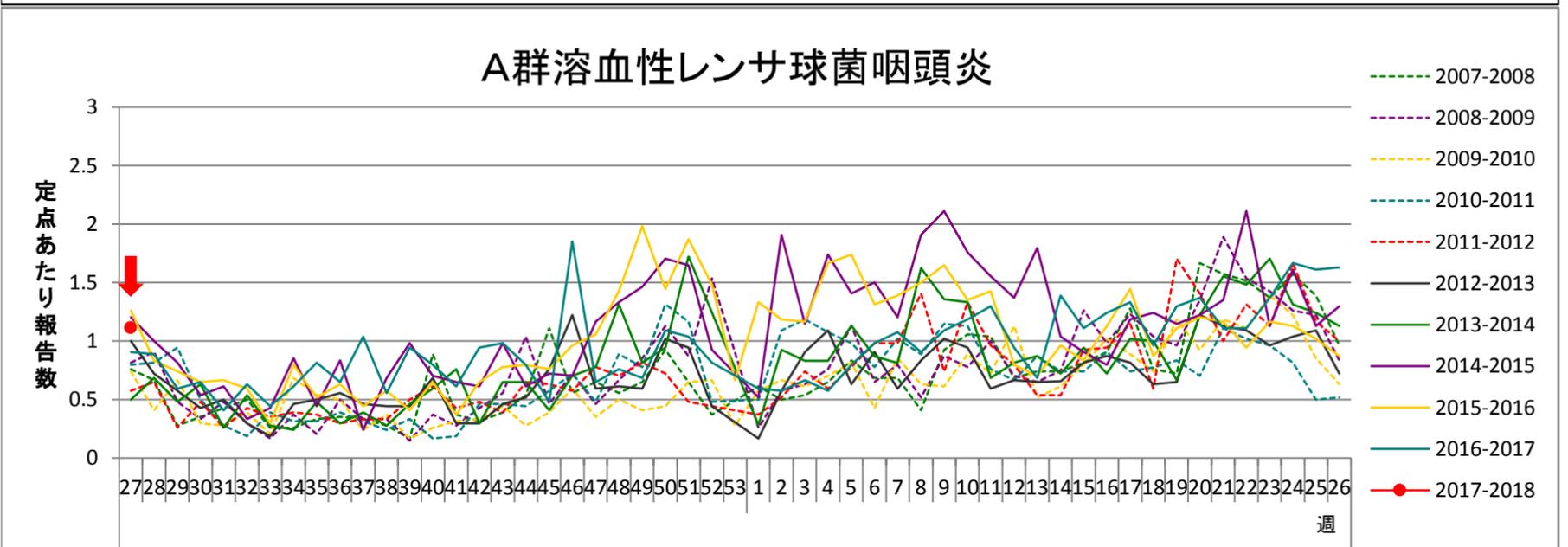
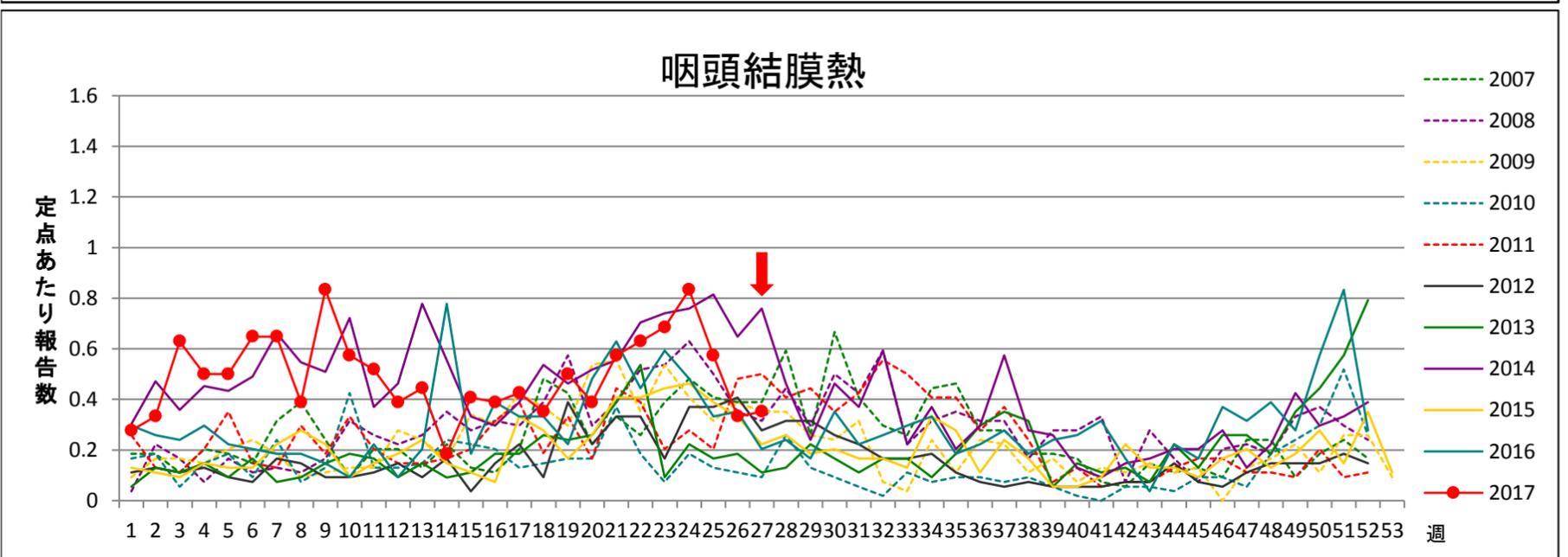
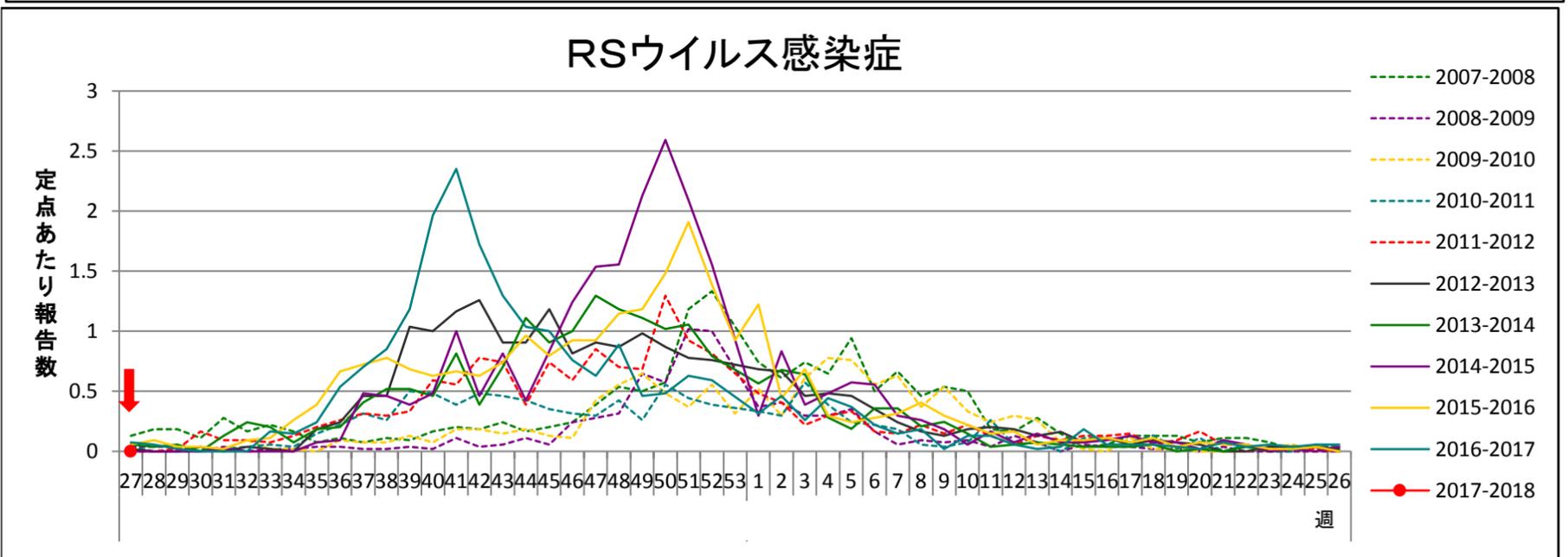
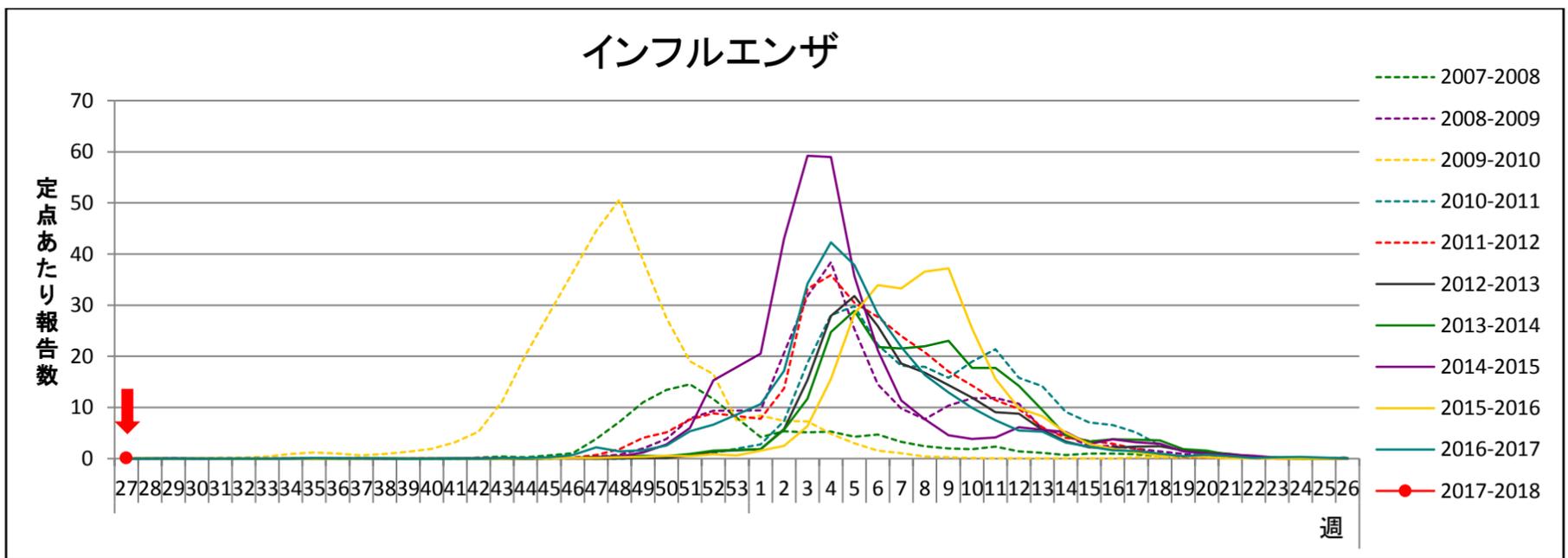
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	6	-	1	1	-	-	-	2	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	19	-	2	6	4	2	2	2	-	-	-	1	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	60	-	-	7	3	8	6	8	9	9	2	2	5	1	-
感染性胃腸炎	344	4	35	76	36	24	23	16	10	12	10	10	36	11	41
水痘	22	-	2	2	1	2	2	5	1	1	2	2	2	-	-
手足口病	413	3	44	155	93	46	26	23	11	3	1	1	2	-	5
伝染性紅斑	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	36	1	18	15	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	99	3	11	42	25	6	3	7	1	-	-	1	-	-	-
流行性耳下腺炎	14	-	-	1	-	5	2	4	-	-	-	-	2	-	-

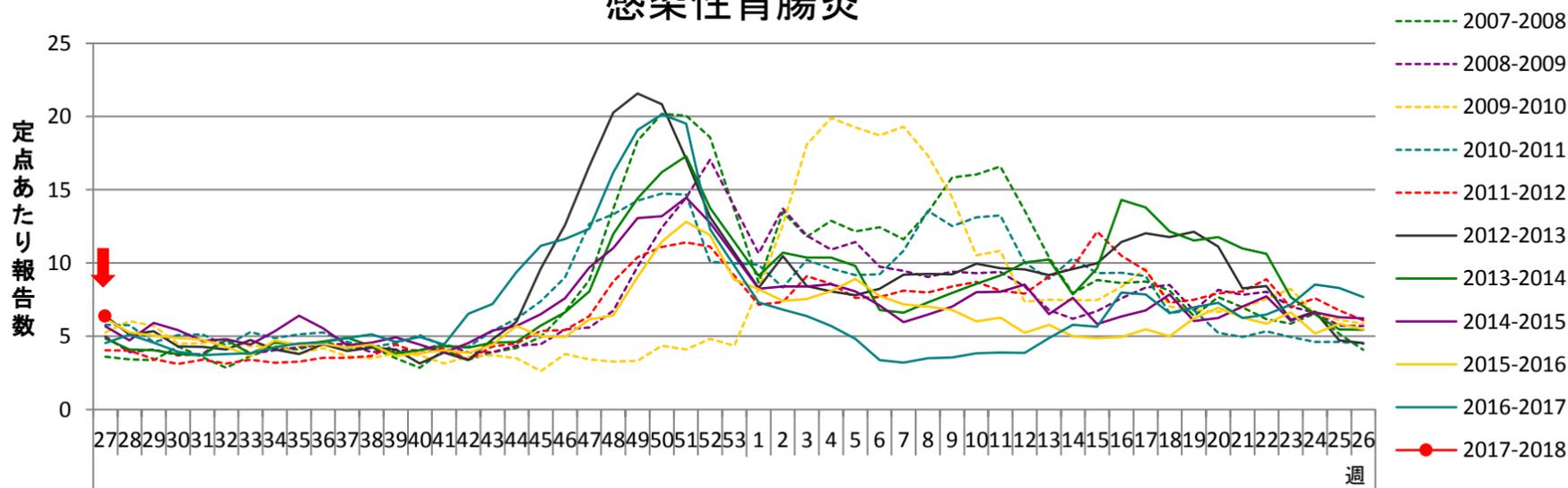
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎	6	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

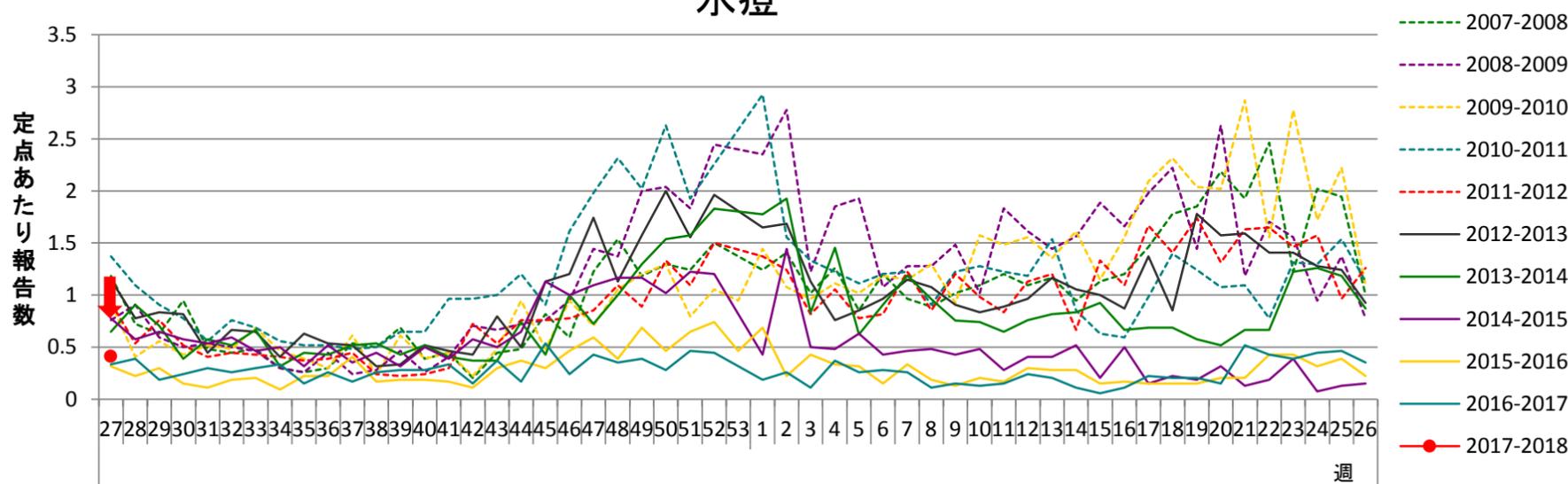
(- : 0)



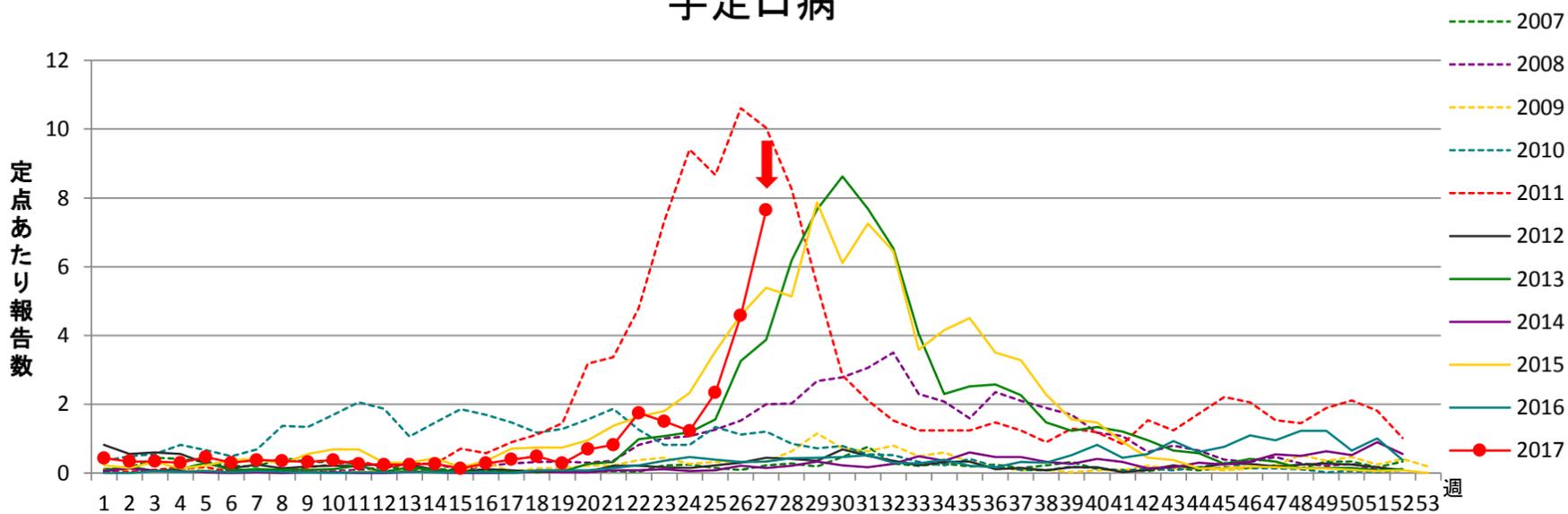
感染性胃腸炎



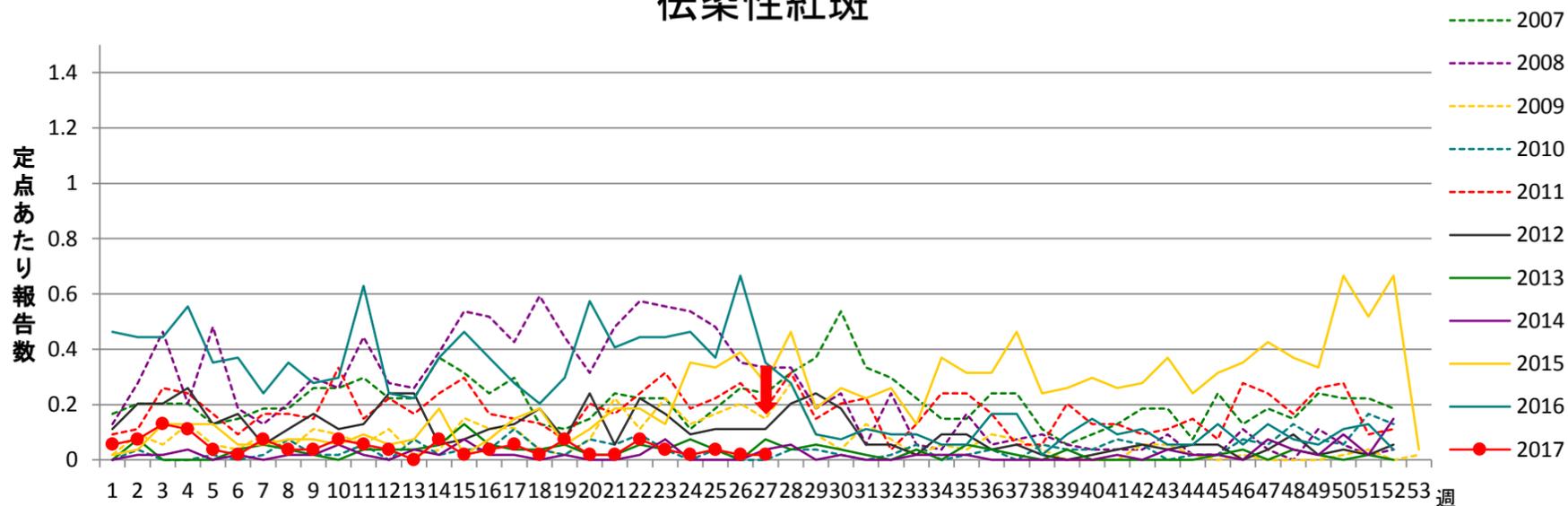
水痘



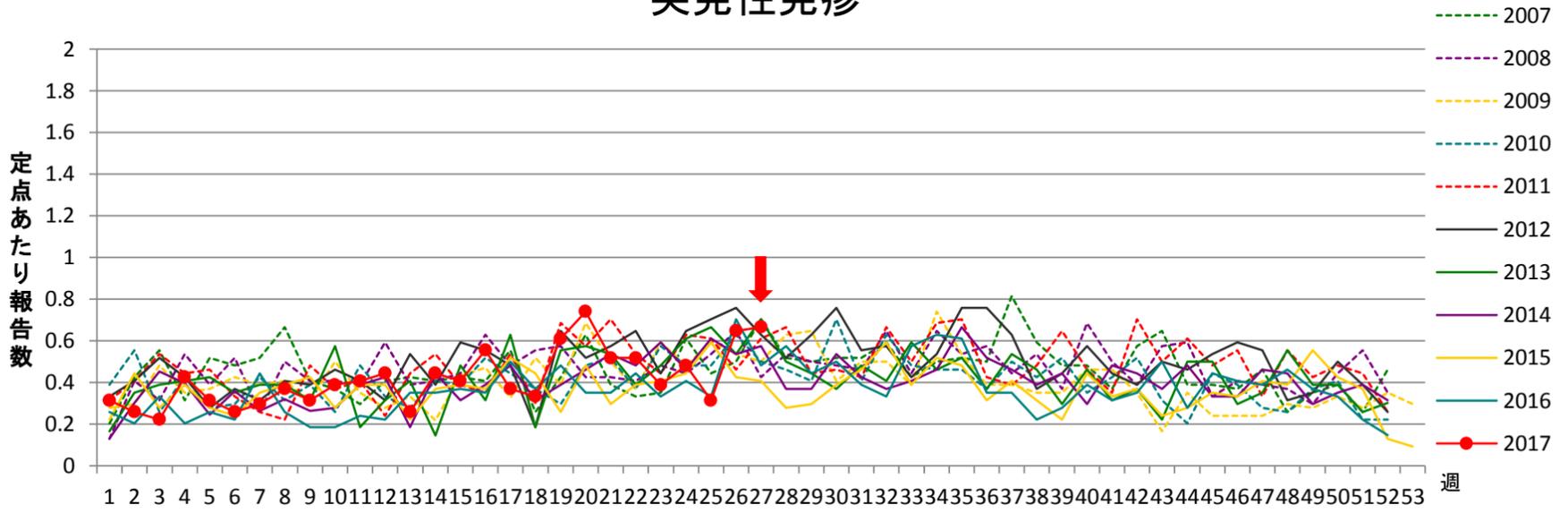
手足口病



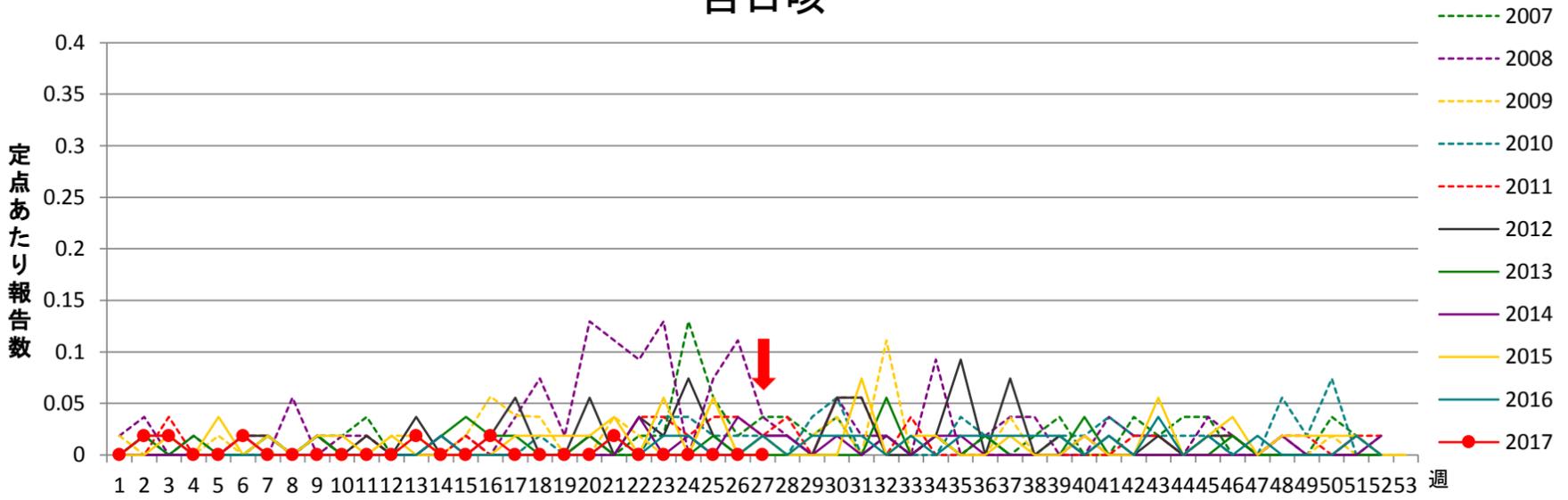
伝染性紅斑



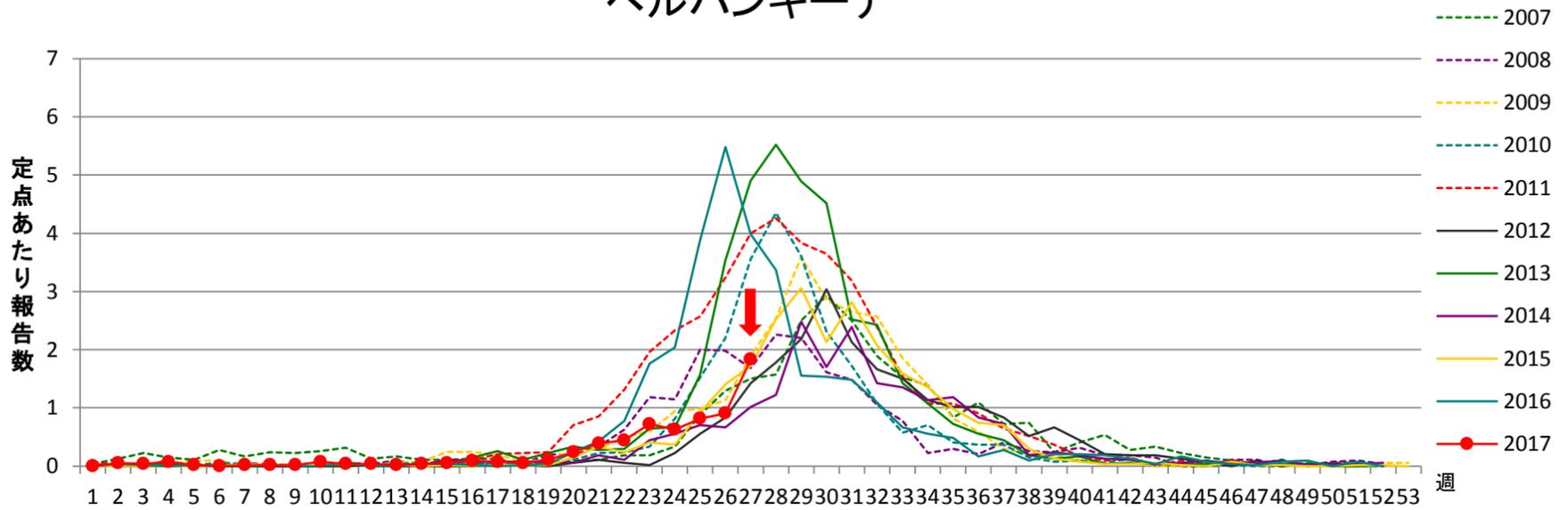
突発性発疹



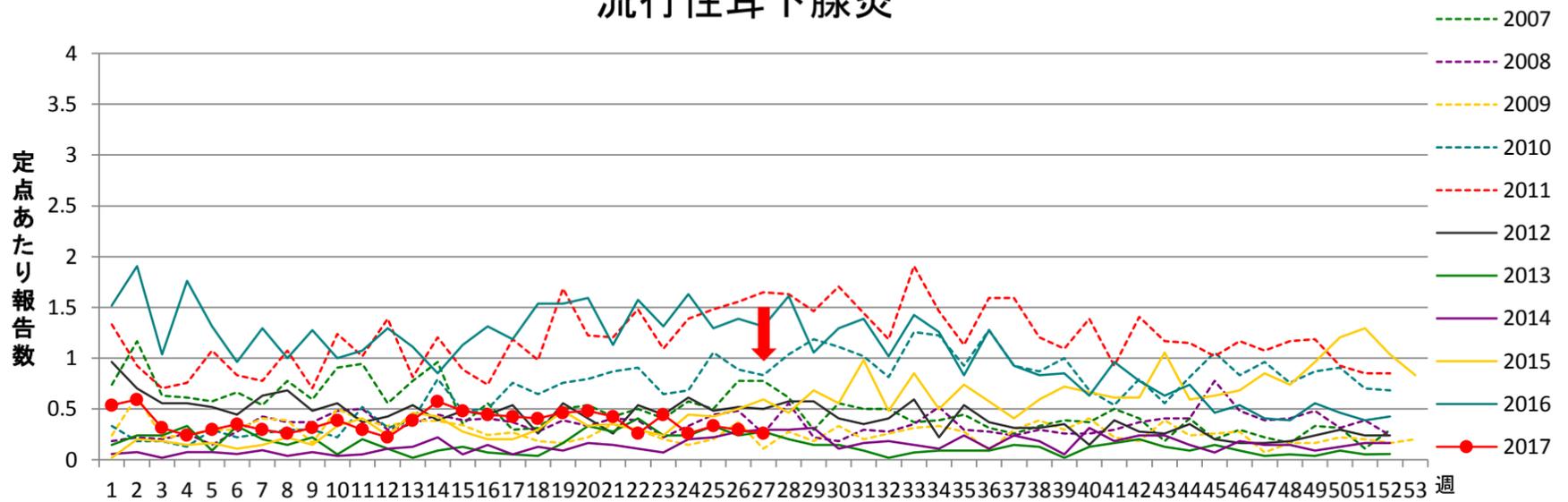
百日咳



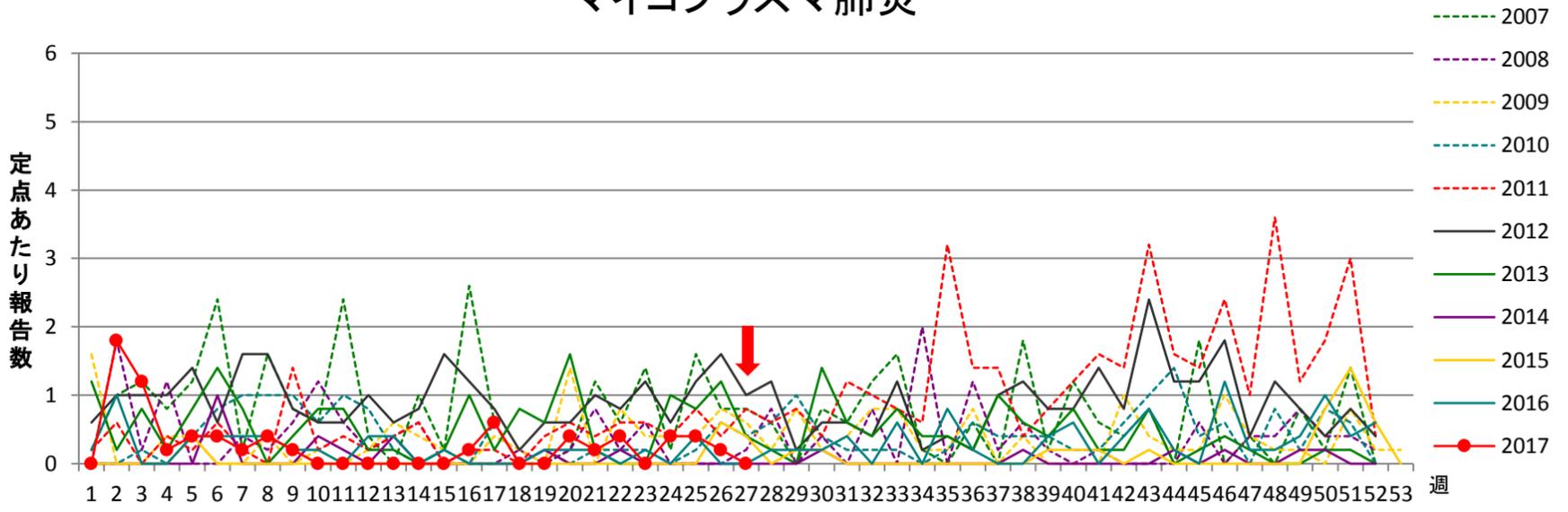
ヘルパンギーナ



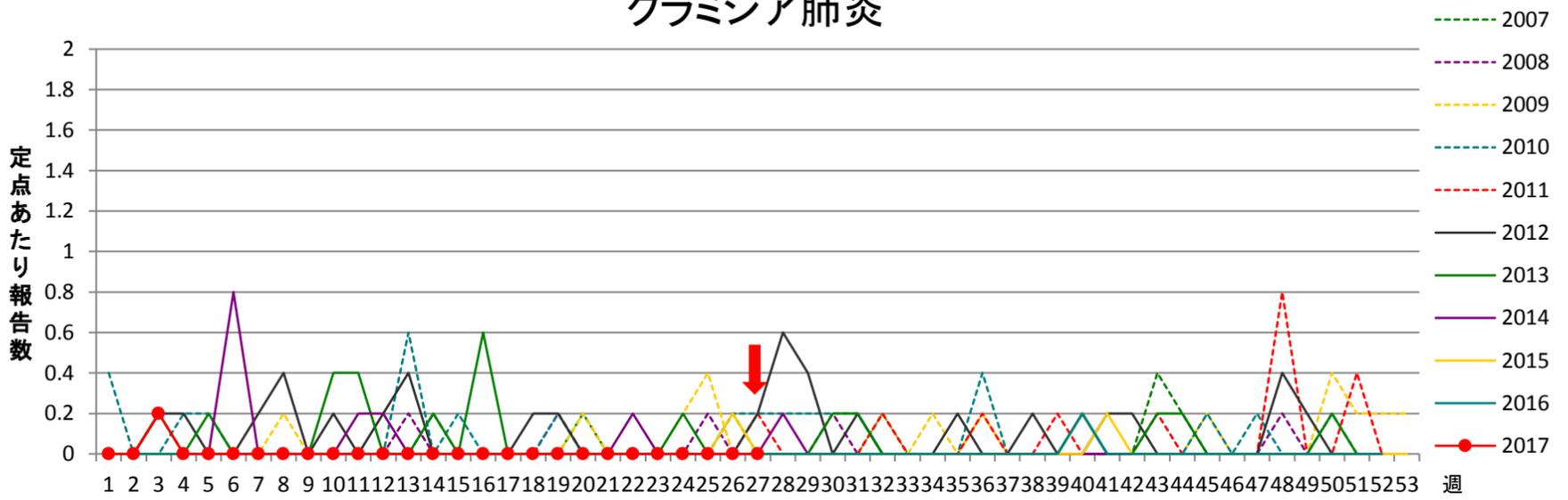
流行性耳下腺炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

